R3年度　放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表:令和　4年　3月　31日

事業所名　　放課後等デイサービス　にじの森　　職員数　7人　：　回収数　　7人　：　割合　100%

		チェック項目	はい	いいえ	未記入	工夫している点・改善すべき点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7				・事業所移転してからは、空間のに余裕ができたと思う。
	2	職員の配置数は適切である	7			・送迎関係で見守りが不十分な状況がある	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	4	3		・階段を使ってしか入室できない	・活動スペースが2階部分である為、車いすの方等利用がある場合には、大人の介助が必要になると思う。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	6		1	・業務内容に関して話し合う機会を設けた	・全体職員で子どもについての話合いは、定期的に行っている
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7				・指摘受けていない項目でも、随時改善が必要だと思われることについては、職員間で話し合いの議題とし、改善に向けて考えていきたいと思う。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7				
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	7				・年に一回第三者委員の方に事業所の報告会を行い、助言を頂いている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7			・虐待防止研修のような研修後の報告を含めた会議が各研修後に会っても良いのではないかと思う。	・研修会参加後は、報告書のみではなく、研修会として報告会を開催していくことを検討していく。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7				・本人や保護者の希望を計画書に記入して頂き、願に近づけるよう計画に反映できるようにしている。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7				・アセスメント内容を、見直ししていく必要があると考えている。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	7				・活動計画を、毎月定期的に行っている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7				・固定化しないように、チェックしている。子どもさんの意見を聞き、反映するようにもしている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7				・休日のプログラムは、普段いけない場所などに行き楽しめるように企画している。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	7				・「12」項目と同様です
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7				・支援開始前に、前日の活動内容の反省点や利用されていた子どもさんの気になる事等、話す時間を作っている。当日の役割分担なども打ち合わせする事ができている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7				・長期休暇時の時間確保は課題である。ケース記録の時間で、職員間ではしっかり伝え合い、記録として残している。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7				・上記同様
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7				・令和3年度は、前、後期の中間モニタリングとして、事業所と保護者双方で計画書通りに動けているか、書類にて評価できるようにした。判断に役立っていると思う。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	7				

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	1			・担当制を設けている為、より細かく子どもさんの様子を把握することができている。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	7			・学校によって共有が難しく感じるケースもある。	・児童発達支援管理責任者が、時間割や年間行事予定等確認を行うようにしている。日々の送迎に関しては、毎回一日か始まる前に全体で確認している為、抜けがないようにしている。万が一送迎中のトラブルが発生した場合には、送迎職員が携帯電話を所持している為、事業所に連絡を取ることで、行き違いなどが起こらないよう、情報を一か所に集め判断するようにしている。 ・学校との情報共有に関しては、連携の方法など、今後検討していきたい。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	6		1	・かかりつけ番号や両親の連絡先は携帯電話に入れている。	・保護者を通じて、連絡を取ってもらっている。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	6	1			・必要に応じて、連絡を取り情報共有をするようにしている。（保護者に必ず確認を取ってから行うようにしている）
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	6		1		・その用意はできている為、移行する際には情報提供をしたいと思う。また、要請がある時も応じられている。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	1			・連絡をとれる関係は築いている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	5		・コロナの為できていない。 ・コロナの影響で交流の場を作ることが難しいが、公園等でやり取りする場面はあった。	・コロナの状況では難しいと思われる。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	6	1		・担当の職員が参加している	・担当職員が参加している。情報も報告してもらい、全職員が把握することができている
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7			・気になったことを伝える	・連絡帳や送迎中、また電話も活用し連携をとるように心がけている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント･トレーニング等の支援を行っている	7			・ペアレントトレーニングスキルの向上を図っていきたい。	・ペアレントトレーニングを改めて行うことはしていない。面談時、しっかり子どもさんの状況を説明しながら、より良い支援方法を共に考えられるように、話を進めている。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	1			・契約時に、時間をかけて行っているが、防災についての説明不足を感じている。今後、機会を作っていく必要があると考えている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7				・随時、ご相談があがった時に対応しているが、直接事業所に言えないこともあると思われる時には、相談事業所の専門員の力も借りていく必要があると考える。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	4	1	・保護者会がないので、保護者も一緒に参加する行事も計画していたが、コロナで難しい状況 ・父母の会はない。	・保護者会は設置していないので、子どもを交えてのレクリエーション会等の開催を、事業所としては行っていく上で、保護者同士の交流の場を増やしていきたいと考える。また、保護者間での交流の場等必要であれば、ご家族にご意見を聞きながら進めていきたいと思う。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	7				・苦情やクレームがなかったが、日頃の小さな疑問や気になる事等、伝える事が苦手な方もおられると思う為、意見箱の設置を検討中である。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7				・毎月通信の発行を、職員持ち回りで担当している。訓練関係の発信の回数を増やして行くことが課題である。
	35	個人情報に十分注意している	7				
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7				・人権擁護の観点から、しっかり子ども達に向き合う努力を行っている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	5		・話し合いで、時々出ていたコロナで実行されていない。	・コロナの状況の中、できていない。しかし、子どもたちで作った神輿をお泊り体験の機会にご近所をまわり、通りに出てきて頂いた方との交流する時間が少し持てた。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7				・施設全体と、保護者へ向けて、令和4年度は防災への取り組み方を見直していく予定である。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7				・2ヶ月に一回、定期的に訓練できている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7				・毎年県の主催する虐待防止研修への参加を行うと共に、報告会も兼ねて研修する機会を作る事ができている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	7				・個別支援計画書にて説明を行っている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7				・アレルギーの有無の確認は、児童表にて確認を行っている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7				・もう少し、件数を陰ながら、日々の職員意識の向上に努めていきたいと考える。